

HILTI

DD 250

DD 200/HD 30

DD 200/ST 200

English

en

Français

fr

عربي

ar

日本語

ja

한국어

ko

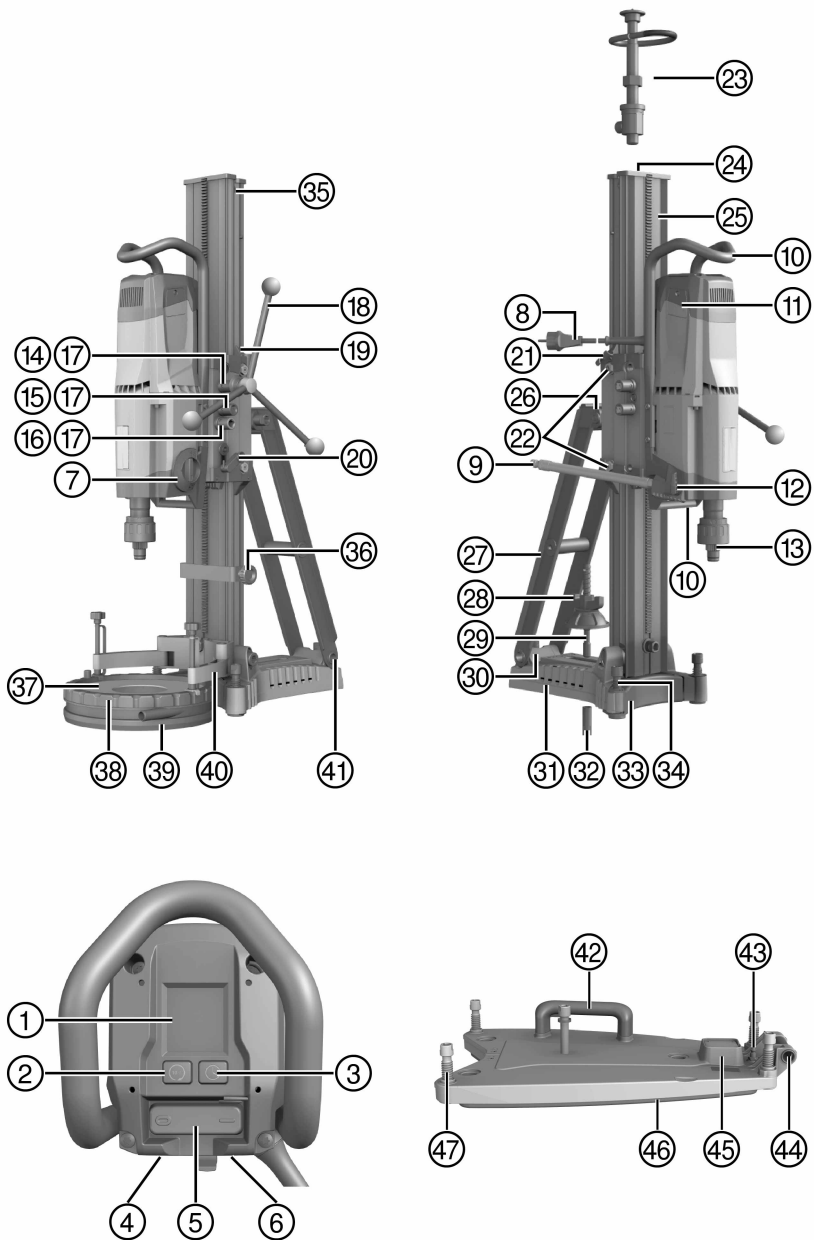
中文

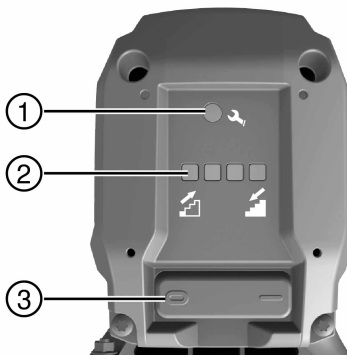
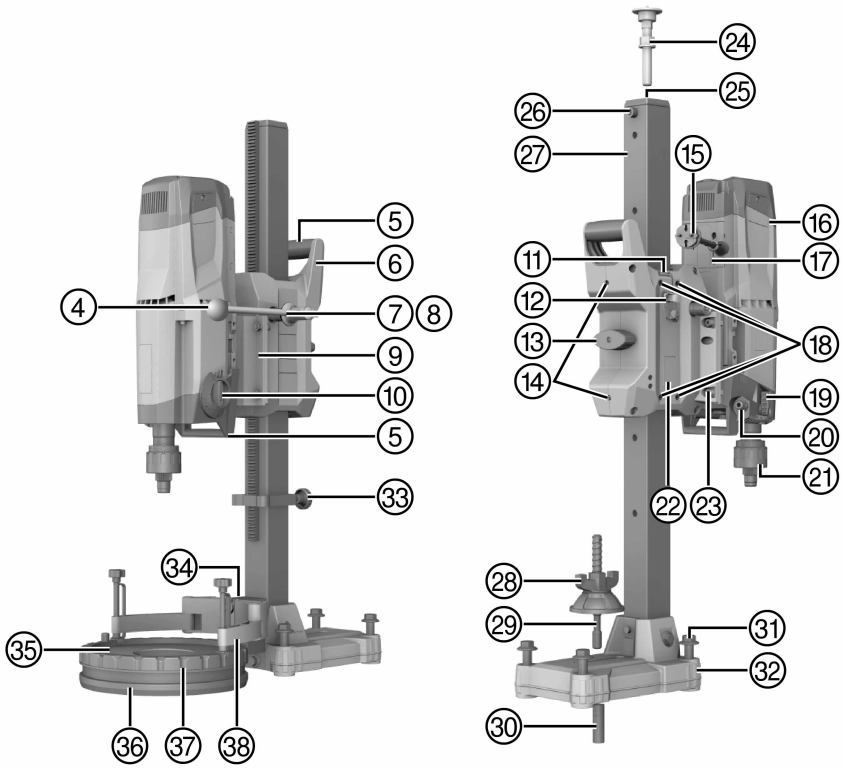
cn

繁體中文

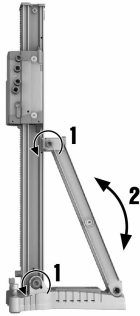
zh



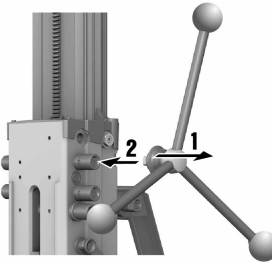




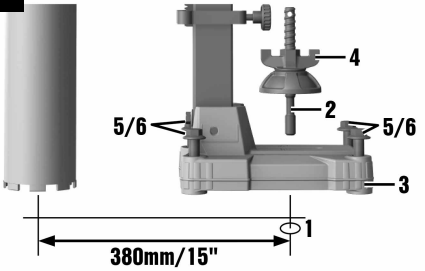
3



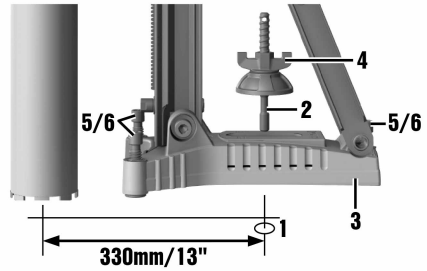
4



5

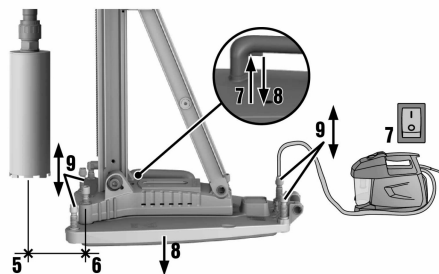
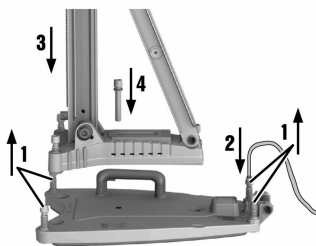


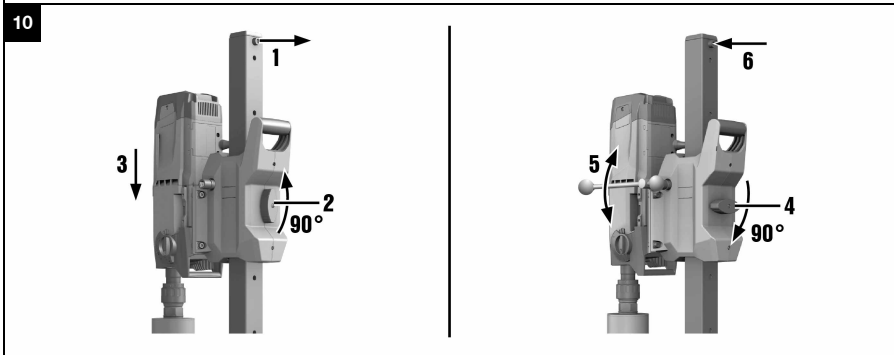
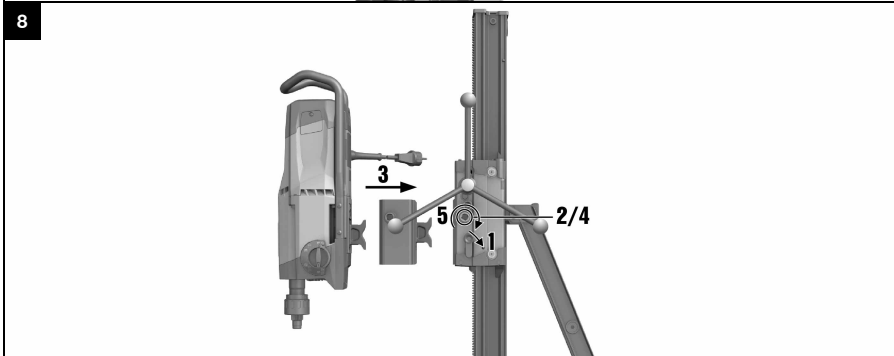
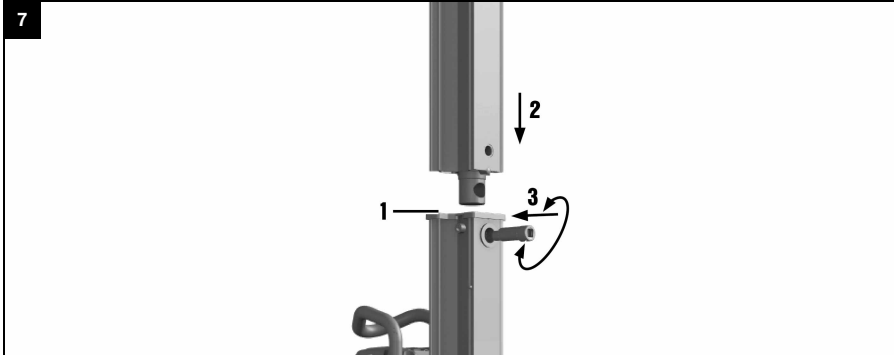
DD-ST 200



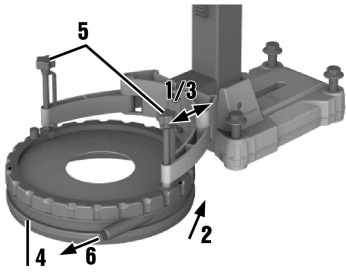
DD-HD 30

6

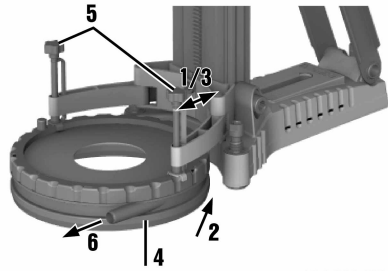




11

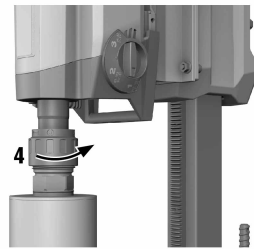
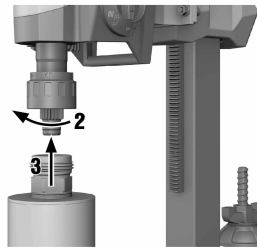
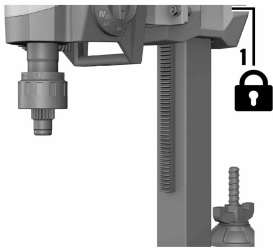


DD-ST 200

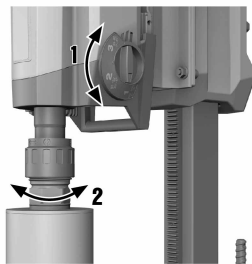


DD-HD 30

12



13



DD 250

DD 200/HD 30

DD 200/ST 200

en	Original operating instructions	1
fr	Mode d'emploi original	32
ar	دليل الاستعمال الأصلي	64
ja	オリジナル取扱説明書	95
ko	오리지널 사용설명서	124
cn	原版操作说明	153
zh	原始操作说明	178

1 記録データ

1.1 凡例

1.1.1 禁止表示

以下の禁止表示が使用されています：



クレーンによる搬送禁止

1.1.2 警告表示

以下の警告表示が使用されています：



一般警告事項



高温に関する警告事項



電気に関する警告事項

1.1.3 義務表示

以下の義務表示が使用されています：



使用前に取扱説明書をお読みください



保護手袋を着用してください

1.1.4 略号

以下の略号が使用されています：



サーブスインジケータ



穿孔開始ステップ



作動時間カウンター



パワーインジケータ—接触圧を高める



パワーインジケータ—接触圧を低くする



保護接地

n_0

無負荷回転数



本製品を効率良く取り扱うための注意事項や役に立つ情報

1.1.5 フォントによる強調

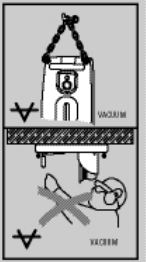


この技術資料では、重要なテキストを強調するために以下のフォントが使用されています：



この数字は該当図を示しています。

1.2 注意事項表示

ドリルスタンド、ベースプレートまたはダイヤモンドコアドリルに表示

	<p>バキュームベースプレートに表示 上図：バキュームベースプレートを接続して水平方向の穿孔作業をする場合には、ドリルスタンドを固定させるための付加的な措置を施さなければなりません。 下図：バキュームプレートによる固定では、追加の固定具なしで上向き穿孔を行ってはいけません。</p>
	<p>ダイヤモンドコアドリルに表示 上向きの施工時には、必ず湿式バキュームクリーナーに接続した水処理システムを使用してください。</p>
	<p>ダイヤモンドコアドリルに表示 必ず正常に作動する漏電遮断機を使用してください。</p>

1.3 取扱説明書

- ▶ ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。
 - ▶ この取扱説明書は必ず本体と一緒に保管してください。
 - ▶ 他の人が使用する場合には、本体と取扱説明書を一緒にお渡しください。
- 予告なく変更されることがあります、また誤記の可能性を完全には排除できません。

1.4 製品情報

- ▶ 機種名および本体番号は製品の銘板に表示されています。このデータを下記の表にメモ書きしておき、お問い合わせなどの必要な場合に引用してください。

製品データ

ダイヤモンドコアドリル	DD 250 DD 200/HD 30 DD 200/ST 200
製品世代	02
製造番号：	

2 安全

2.1 警告表示

警告表示の機能

警告表示は製品の取扱いにおける危険について警告するものです。

注意喚起語の説明

危険

この表記は、重傷あるいは死亡事故につながる危険性がある場合に注意を促すために使われます。

警告

この表記は、重傷あるいは死亡事故につながる可能性がある場合に注意を促すために使われます。


注意

この表記は、軽傷あるいは物財の損傷が発生する可能性がある場合に使われます。

2.2 安全上の注意

以下の章で言及されている安全上の注意事項は、準拠する規格が取扱説明書に記載するように定めている電動工具に関するすべての基本的な安全情報を含んでいます。したがって、この取扱説明書で説明する機器には関係のない注意事項が含まれていることもあります。

2.2.1 電動工具の一般安全注意事項

 **警告事項** 本電動工具に付属のすべての安全上の注意、指示事項、図、および製品仕様をお読みください。以下の指示を守らないと、感電、火災および/または重傷事故の危険があります。

安全上の注意および指示事項が書かれた説明書はすべて大切に保管してください。

安全上の注意で使用する用語「電動工具」とは、お手持ちの電動ツール（電源コード使用）またはバッテリーツール（コードレス）を指します。

作業環境に関する安全

- ▶ 作業場はきれいに保ち、十分に明るくしてください。ちらかった暗い場所での作業は事故を起こす恐れがあります。
- ▶ 爆発の危険性のある環境（可燃性液体、ガスおよび粉じんのある場所）では電動工具を使用しないでください。電動工具から火花が飛散し、粉じんや揮発性ガスに引火する恐れがあります。
- ▶ 電動工具の使用時、子供や無関係者を作業場へ近づけないでください。作業中に気がそらされると、本体のコントロールを失ってしまう恐れがあります。

電気に関する安全注意事項

- ▶ 電動工具の接続プラグは電源コンセントにきちんと適合しなければなりません。プラグは絶対に変更しないでください。保護接地した電動工具と一緒にアダプタープラグを使用しないでください。オリジナルのプラグと適切なコンセントを使用することにより、感電の危険を小さくすることができます。
- ▶ パイプ、ラジエーター、電子レンジ、冷蔵庫などのアースされた面に体の一部が触れないようにしてください。体が触れると感電の危険が大きくなります。
- ▶ 電動工具を雨や湿気から保護してください。電動工具に水が浸入すると、感電の危険が大きくなります。
- ▶ 電動工具を持ち運んだり、吊り下げたり、コンセントからプラグを抜いたりするときは、必ず本体を持ち、電源コードを持ったり引っ張ったりしないでください。電源コードを火気、オイル、鋭利な刃物、本体の可動部等に触れる場所に置かないでください。コードが損傷したり絡まったりしていると、感電の危険が大きくなります。
- ▶ 屋外工事の場合には、屋外専用の延長コードのみを使用してください。屋外専用の延長コードを使用すると、感電の危険が小さくなります。

- ▶ 湿った場所で電動工具を作動させる必要がある場合は、漏電遮断機を使用してください。漏電遮断機を使用すると、感電の危険が小さくなります。

作業者に関する安全

- ▶ 電動工具を使用の際は、油断せずに十分注意し、常識をもった作業をおこなってください。疲れている場合、薬物、医薬品服用およびアルコール飲用による影響下にある場合には電動工具を使用しないでください。電動工具使用中の瞬間の不注意が重傷の原因となることがあります。
- ▶ 個人用保護具および保護メガネを常に着用してください。けがに備え、電動工具の使用状況に応じた粉じんマスク、耐滑性の安全靴、ヘルメット、耳栓などの個人用保護具を着用してください。
- ▶ 電動工具の不意な始動は避けてください。電動工具を電源および/またはバッテリーに接続する前や本体を持ち上げたり運んだりする前に、本体がオフになっていることを必ず確認してください。オン/オフスイッチが入っている状態で電動工具のスイッチに指を掛けたまま運んだり、電源に接続したりすると、事故の原因となる恐れがあります。
- ▶ 電動工具のスイッチを入れる前に、必ず調節キーやレンチを取り外してください。調節キーやレンチが本体の回転部に装着されたままでは、けがの原因となる恐れがあります。
- ▶ 作業中は不安定な姿勢をとらないでください。足元を安定させ、常にバランスを保つようにしてください。これにより、万一電動工具が異常状況に陥った場合にも、適切な対応が可能となります。
- ▶ 作業に適した作業着を着用してください。だぶだぶの衣服や装身具を着用しないでください。髪、衣服、手袋を本体の可動部に近づけないでください。だぶだぶの衣服、装身具、長い髪が可動部に巻き込まれる恐れがあります。
- ▶ 吸じんシステムの接続が可能な場合には、これらのシステムが適切に接続、使用されていることを確認してください。吸じんシステムを利用することにより、粉じん公害を防げます。
- ▶ 電動工具の取扱いに熟練している場合にも、正しい安全対策を遵守し、電動工具に関する安全規則を無視しないでください。不注意な取扱いは、ほんの一瞬で重傷事故を招くことがあります。

電動工具の使用および取扱い

- ▶ 無理のある使用を避けてください。作業用途に適した電動工具を使用してください。適切な電動工具の使用により、効率よく、スムーズかつ安全な作業が行えます。
- ▶ スwitchに故障がある場合には、電動工具を使用しないでください。スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は危険ですので、修理が必要です。
- ▶ 本体の設定やアクセサリの交換を行う前や本体を保管する前には電源プラグをコンセントから抜き、および/または脱着式のバッテリーを取り外してください。この安全処置により、電動工具の不意の始動を防止することができます。
- ▶ 電動工具をご使用にならない場合には、子供の手の届かない場所に保管してください。電動工具に関する知識のない方、本説明書をお読みでない方による本体のご使用は避けてください。電動工具は慣れていない人が使用すると危険です。
- ▶ 電動工具とアクセサリは慎重に手入れしてください。可動部分が引っ掛かりなく正常に作動しているか、電動工具の運転に影響を及ぼす各部分が破損・損傷していないかを確認してください。電動工具を再度ご使用になる前に、損傷部分の修理を依頼してください。発生事故の多くは保守管理の不十分な電動工具の使用が原因となっています。
- ▶ 先端工具は鋭利で汚れない状態を保ってください。お手入れのゆきとどいた先端工具を使用すると、作業が簡単かつ、スムーズになります。
- ▶ 電動工具、アクセサリ、先端工具などは、それらの説明書に記載されている指示に従って使用してください。その際、作業環境および用途に関してもよくご注意ください。指定された用途以外に電動工具を使用すると危険な状況をまねく恐れがあります。
- ▶ グリップとグリップ面は乾燥した清潔な状態に保ち、オイルやグリスの付着がないようにしてください。グリップやグリップ面が滑りやすい状態になっていると、予期していない状況が発生した際に電動工具を安全に使用/制御できません。

サービス

- ▶ 電動工具の修理は必ず認定サービスセンターにお申し付けください。また、必ず純正部品を使用してください。これにより電動工具の安全性が確実に維持されます。

2.2.2 ダイヤモンドドリルに関する安全上の注意

- ▶ 水を使用する必要がある穿孔作業を行う際は、作業領域から水を除去するか、あるいは水を受ける容器を使用してください。このような事前処置により作業領域を乾燥した状態に保ち、感電の危険を低減します。
- ▶ 隠れた電線や装置自体の電源コードに先端工具が接触する可能性のある作業を行う場合は、絶縁されたグリップ面を掴んで電動工具を使用してください。先端工具が通電状態の配線と接触すると電動工具の金属部分にも電圧がかかり、感電の危険があります。
- ▶ ダイヤモンドコアドリルによる穿孔の際は耳栓を着用してください。騒音により、聴覚に悪影響が出る恐れがあります。

- ▶ 先端工具がブロックした場合は、それ以上先端工具を送ることをしないで電動工具をオフにします。先端工具が噛んだことの原因を突き止め、その原因を取り除いてください。
- ▶ 作業材料に食い込んでいるダイヤモンドドリルを再スタートする際は、スイッチをオンにする前に先端工具が問題なく回転するか確認してください。先端工具は噛んでいると回転せず、そのため工具の過負荷、あるいはダイヤモンドドリルが作業材料から外れる原因となることがあります。
- ▶ アンカーおよびネジによりドリルスタンドを作業材料に固定する際は、使用するアンカー一具が機械の使用中被保持できるものであることを確認してください。作業材料が抵抗力のないものあるいは多孔性のものである場合は、アンカーが抜けてドリルスタンドが作業材料から外れる可能性があります。
- ▶ バキュームベースプレートによりドリルスタンドを作業材料に固定する際は、表面が滑らかで、汚れがなく、また多孔性でないことを確認してください。ドリルスタンドは、タイルおよび結合剤の層などの表層処理を施した面に固定しないでください。作業材料の表面が滑らかでない、平坦でない、あるいは固定が十分でない、バキュームベースプレートが作業材料から外れることがあります。
- ▶ 穿孔前および穿孔作業時に、負圧が十分であることを確認してください。負圧が十分でない、バキュームベースプレートが作業材料から外れることがあります。
- ▶ 機械がバキュームベースプレートのみで固定されている場合は、決して上向き穿孔および壁面への穿孔を行わないでください。負圧が失われると、バキュームベースプレートが作業材料から外れます。
- ▶ 壁面あるいは天井を貫通させて穿孔作業を行う場合は、反対側の作業領域およびそこにいる人員に危険が及ぶことがないか、注意してください。コアビットが穿孔穴から突出して、コアが反対側に落下する可能性があります。
- ▶ 上向き穿孔の際は、必ず取扱説明書に指定された水受け容器を使用してください。工具内に水が浸入しないように注意してください。電動工具に水が浸入すると、感電の危険が大きくなります。

2.2.3 その他の安全上の注意

作業者に関する安全

- ▶ 本体の加工や改造は絶対に行わないでください。
- ▶ 本体は、体の弱い人が指示を受けずに使用するには向いていません。
- ▶ 本体は子供の手が届かないところに保管してください。
- ▶ 回転部分には手を触れないでください。本体の電源は必ず作業場に入れてください。回転部分、特に回転している先端工具は負傷の原因となります。
- ▶ ノロに皮膚が触れないようにしてください。
- ▶ 含鉛塗料、特定の種類の木材、コンクリート / 石材、石英を含む岩石、鉱物および金属などの母材から生じた粉じんは、健康を損なう危険があります。作業者や近くににいる人が粉じんに触れたり吸い込んだりすると、アレルギー反応や呼吸器疾患を起こす可能性があります。カンやブナ材などの特定の粉じんは、特に木材処理用の添加剤（クロム塩酸、木材保護剤）が使用されている場合、発ガン性があるとされています。アスベストが含まれる母材は、必ず専門家が取り扱うようにしてください。できるだけ有効な集じん装置を使用してください。これには、本電動工具に適したHilti推奨の木材および / または鉱物粉じん用可動集じん装置を使用してください。作業場の換気に十分配慮してください。それぞれの粉じんに適した防塵マスクの着用を推奨します。処理する母材について、各国で効力を持つ規定を遵守してください。
- ▶ ダイヤモンドコアドリルおよびダイヤモンドコアビットは重いので注意してください。身体の一部を挫傷する危険があります。本体使用中、作業者および現場で近所に居合わせる人々は保護メガネ、保護ヘルメット、耳栓、保護手袋、安全靴を着用しなければなりません。

電動工具の慎重な取扱いおよび使用

- ▶ 本体がドリルスタンドに正しく固定されていることを確認してください。
- ▶ 必ず、エンドストップを再びドリルスタンドに取り付けてください。エンドストップを取り付けないと、安全に関わるエンドストップ機能が正しく作動しません。
- ▶ 先端工具がチャック機構に適合し、チャック内にしっかりと固定されていることを確認してください。

電気に関する安全注意事項

- ▶ コンセント口が数個付いている延長コードに、複数の機器を同時に接続して使用しないでください。
- ▶ 本体は、必ずアース線付きの十分な長さの主電源に接続して使用してください。
- ▶ 作業を開始する前に、作業場に埋設された電線、ガス管や水道管がないかを金属探知機などで調査してください。例えば、作業中に誤って先端工具が電線に触れると、本体の金属部分とケーブルが通電する可能性があります。この場合、感電による重大な事故が発生する危険があります。
- ▶ キャリッジを動かす際に電源コードが損傷しないように注意してください。
- ▶ 本体を作動させる場合は、必ずは同梱の漏電遮断機を使用してください（漏電遮断機のない装置は決して絶縁変圧器などで使用しないでください）。ご使用前には毎回、漏電遮断機を点検してください。
- ▶ 本体の電源コードを定期的に点検し、コードに損傷がある場合は、認定を受けた修理スペシャリストに交換を依頼してください。電動工具の電源コードが損傷した場合は、専用の承認された交換用電源コードと交換してください。交換用電源コードはヒルティサービスセンターにご注文ください。延長コー

ドを定期的に点検し、損傷がある場合は交換してください。作業中、損傷した電源コード、延長コードには触れないでください。電源プラグをコンセントから抜きます。損傷した電源コードや延長コードは感電の原因となり危険です。

- ▶ 本体は、決して汚れた状態あるいは濡れた状態で使用しないでください。本体表面に泥や水分が付くと本体の保持が困難となり、時に感電の恐れがあります。したがって特に導電性のある物質に対する作業を頻繁に行う場合は、定期的にHilti サービスセンターに本体の点検を依頼してください。

作業場の安全確保

- ▶ 穿孔作業は現場監督者の許可を得て行ってください。建物およびその他の構造物への穿孔作業、特に鉄筋または鉄骨梁の除去は静力学に影響を及ぼします。
- ▶ 転倒を防止するために、ドリルスタンドが正しく固定されていない場合にはドリルスタンドに取り付けた本体を必ず最低位置にしてください。
- ▶ 電源および延長ケーブル、吸引およびバキュームホースを回転部分から遠ざけてください。
- ▶ 湿式穿孔での上向きの施工時には、湿式バキュームクリーナーに接続した水処理システムを必ず使用してください。
- ▶ 上向きの施工時には、追加の固定具なしでのバキュームによる固定は禁止されています。
- ▶ バキュームベースプレート（アクセサリ）を接続して水平方向の穿孔作業をする場合には、必ずドリルスタンドを固定させるための付加的な措置を施してください。

3 製品の説明

3.1 DD 250 ダイヤモンドコアドリル / DD-HD 30 ドリルスタンドの各部名称、表示および操作エレメント

DD 250 ダイヤモンドコアドリル

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ① マルチファンクションディスプレイ | ⑥ 漏電遮断機付き電源コード |
| ② 穿孔開始ステップボタン | ⑨ 給水コネクター |
| ③ 作動時間カウンターボタン | ⑩ キャリンググリップ (2x) |
| ④ 銘板 | ⑪ カーボンブラシカバー (2x) |
| ⑤ ON/OFF スイッチ | ⑫ 給水コック |
| ⑥ 電源コードカバー | ⑬ チャック |
| ⑦ ギア選択スイッチ | |

DD-HD 30 キャリッジ

- | | |
|------------------------------|---------------------|
| ⑭ ハンドルスリーブ 1: 1 | ⑮ ハンドル |
| ⑮ ハンドルスリーブ 1: 3 | ⑯ レベリングインジケーター (2x) |
| ⑯ ロッキングボルト (ダイヤモンドコアドリルのロック) | ⑰ キャリッジロック機構 |
| ⑰ シャーピン (5x) | ⑱ 電源コードガイド |
| | ⑲ キャリッジ遊び調整ネジ (4x) |

DD-HD 30 ドリルスタンド

- | | |
|------------------|---------------------------|
| ⑳ ネジジャッキ (アクセサリ) | ㉓ ポジションインジケーター |
| ㉑ エンドキャップ | ㉔ レベル調整スクリュー (3x) |
| ㉒ コラム | ㉕ エンドストップネジ |
| ㉓ キャリンググリップ | ㉖ デプスゲージ (アクセサリ) |
| ㉔ ストラット | ㉗ ウォーターコレクターワッシャー (アクセサリ) |
| ㉕ クランピングナット | ㉘ ウォーターコレクター (アクセサリ) |
| ㉖ クランピングスピンドル | ㉙ シール (アクセサリ) |
| ㉗ 銘板 | ㉚ ウォーターコレクターホルダー (アクセサリ) |
| ㉘ ベースプレート | ㉛ ホイールアセンブリ取り付けポイント |
| ㉙ アンカー | |

バキュームベースプレート (アクセサリ)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| ㉜ バキュームリリースバルブ | ㉝ 圧力ゲージ |
| ㉝ バキュームホース | ㉞ バキュームシール |
| ㉞ ホイールアセンブリ取り付けポイント | ㉟ レベル調整スクリュー (4x) |

3.2 DD 200 ダイヤモンドコアドリル / DD-ST 200 ドリルスタンドの各部名称、表示および操作エレメント

DD 200 ダイヤモンドコアドリル

- | | | | |
|---|----------------|---|-----------------------|
| ① | サービスインジケータ | ⑬ | キャリッジロック機構 |
| ② | パワーインジケータ | ⑭ | キャリッジ遊びローラー調整ネジ (2x) |
| ③ | ON/OFF スイッチ | ⑮ | 漏電遮断機付き電源コード |
| ④ | ハンドル | ⑯ | カーボンブラシカバー (2x) |
| ⑤ | キャリンググリップ (2x) | ⑰ | 電源コードカバー |
| ⑥ | キャリッジケース | ⑱ | キャリッジ遊びスライダー調整ネジ (4x) |
| ⑦ | ハンドルスリーブ | ⑲ | 給水コック |
| ⑧ | シャーペン (2x) | ⑳ | 給水コネクタ |
| ⑨ | アダプターピース | ㉑ | チャック |
| ⑩ | ギア選択スイッチ | ㉒ | 銘板 |
| ⑪ | 調整ネジアレンレンチ | ㉓ | アダプターピースネジ (4x) |
| ⑫ | 電源コードガイド | | |

DD-ST 200 ドリルスタンド

- | | | | |
|---|-----------------|---|-----------------------------|
| ㉔ | ネジジャッキ (アクセサリ) | ㉗ | デプスゲージ (アクセサリ) |
| ㉕ | ネジジャッキホルダー | ㉘ | ウォーターコレクターホルダースペーサー (アクセサリ) |
| ㉖ | エンドストップネジ | ㉙ | ウォーターコレクターワッシャー (アクセサリ) |
| ㉗ | コラム | ㉚ | シール (アクセサリ) |
| ㉘ | クランピングナット | ㉛ | ウォーターコレクター (アクセサリ) |
| ㉙ | クランピングスピンドル | ㉜ | ウォーターコレクターホルダー (アクセサリ) |
| ㉚ | アンカー | | |
| ㉛ | レベル調整スクリュー (4x) | | |
| ㉜ | ベースプレート | | |

3.3 正しい使用


本書で説明している製品は、電動ダイヤモンドコアドリルです。本製品は、スタンド支持による湿式穿孔で（鉄筋の入った）鉋物母材に貫通穿孔および非貫通穿孔を行うためのものです。ダイヤモンドコアドリルの手持ち使用は認められません。

本書で説明している製品はプロ仕様で製作されており、使用、保守、修理を行うのは、認定、訓練された人のみに限ります。これらの人は、遭遇し得る危険に関する情報を入手していなければなりません。本書で説明している製品およびそのアクセサリのトレーニングを受けていない者による誤使用、あるいは規定外の使用は危険です。

- ▶ ダイヤモンドコアドリルを使用する際は、常にドリルスタンドを使用してください。ドリルスタンドは、アンカーベースプレートあるいはバキュームベースプレートにより母材に確実に固定されていなければなりません。
- ▶ ベースプレートの調整作業を行う際には、衝撃の大きな工具（ハンマーなど）を使用しないでください。
- ▶ 本体を接続する主電源が銘板に表示されている電圧、周波数と一致することを必ず確認した上で使用してください。
- ▶ 各国の労働安全衛生法に従ってください。
- ▶ ご使用になるアクセサリの安全および操作上の注意事項にもご留意ください。
- ▶ 怪我の可能性を防ぐため、必ずHilti 純正のアクセサリやコアダビットのみを使用してください。


3.4 DD 250: ダイヤモンドコアドリルのマルチファンクションディスプレイの表示記号と説明

以下の表示は、ダイヤモンドコアドリルが作動可能な状態（電源に接続され漏電遮断機がオンになっている）になっていると表示されます。

	<p>このステータス行には、選択されているギアあるいは穿孔開始ステージが有効にされているなどの現在の本体の状態に関する種々の注意事項が表示されます。</p>
<p>注意事項のステータス行</p>	







 <p>警告事項のステータス行</p>	<p>このステータス行には、(右から左へ) カーボンブラシ交換までの残り作動時間、サービスの必要性あるいは電源のトラブルなどの、ダイヤモンドコアドリルの即座の停止には至らない種々の警告事項が表示されます。</p>
 <p>水準器</p>	<p>ダイヤモンドコアドリルがオンになっていない状態です。表示は、斜め穿孔の際のシステムの高さ調整およびドリルスタンドの位置合わせを容易にします。ダイヤモンドコアドリルの位置合わせは、記号と度数で表示されます。</p> <p>注意事項 室温での角度精度：±2°</p>
 <p>1...4 速のギア表示</p>	<p>ダイヤモンドコアドリルがアイドル状態です。表示は、選択されたギアがダイヤモンドコアビットに適したものであることの確認を容易にします。左上部に選択されたギア、中央にそのギアに対する推奨コアビット直径範囲がミリメートルおよびインチ単位で表示されます。</p>
 <p>穿孔開始ステージ有効</p>	<p>ダイヤモンドコアドリルがオフにされているか、あるいはアイドル状態です。この機能は、直径の大きなコアビットを使用する際の振動の少ない穿孔を可能にします。穿孔開始ステージのボタンを再度押しすと、機能をいつでもオフにすることができます。</p> <p>注意事項 表示は数秒後に自動的に消えます。</p>
 <p>穿孔開始ステージを有効にできない</p>	<p>ダイヤモンドコアドリルが穿孔中です。ダイヤモンドコアドリルに負荷がかかった状態で、あるいはカーボンブラシ交換後の慣らし運転中に、あるいは冷却モード中に、あるいはダイヤモンドコアドリルが穿孔開始ステージで2分間作動した直後に、穿孔開始ステージを有効にするためのボタンが押されました。有効にできません。</p> <p>注意事項 表示は数秒後に自動的に消えます。</p>
 <p>穿孔開始ステージの残り作動時間</p>	<p>ダイヤモンドコアドリルが穿孔中です。穿孔開始ステージが有効です。ダイヤモンドコアドリルが自動的にオフになるまでの残り作動時間が表示されます。</p> <p>注意事項 ダイヤモンドコアドリルの保護のため、穿孔開始モードは最長で2分後には自動的にオフになります。</p>
 <p>パワーインジケータ - 接触圧が低すぎる</p>	<p>ダイヤモンドコアドリルが穿孔中です。穿孔開始ステージが無効です。表示は、ダイヤモンドコアドリルが最適な効率範囲で作動していることの確認を容易にします。背景色：黄色。</p> <p>接触圧が低すぎます。接触圧を高くします。</p>
 <p>パワーインジケータ - 最適接触圧</p>	<p>ダイヤモンドコアドリルが穿孔中です。穿孔開始ステージが無効です。表示は、ダイヤモンドコアドリルが最適な効率範囲で作動していることの確認を容易にします。背景色：緑色。</p> <p>接触圧は最適です。</p>

 <p>定格電流限界を超過</p>	<p>ダイヤモンドコアドリルが穿孔中です。穿孔開始ステージが無効です。定格電流が 20 A の限界値を超過したことが表示されます。背景色：緑色。 接触圧が高すぎます。接触圧を低くしてください。</p>
 <p>パワーインジケータ - 接触圧が高すぎる</p>	<p>ダイヤモンドコアドリルが穿孔中です。穿孔開始ステージが無効です。表示は、ダイヤモンドコアドリルが最適な効率範囲で作動していることの確認を容易にします。背景色：赤色。 接触圧が高すぎます。接触圧を低くしてください。</p>
 <p>作動時間カウンター</p>	<p>作動時間カウンターのボタンが押されています。上部に穿孔時間（ダイヤモンドコアドリルが穿孔を行っている時間）、下部に稼働時間（ダイヤモンドコアドリルがオンにされている時間）が、時間、分および秒単位で表示されます。穿孔時間の合計をゼロにリセットするには、作動時間カウンターのボタンを数秒押してください。</p> <p>注意事項 表示は数秒後に自動的に、あるいはボタンを再度押すと消えます。</p>
 <p>カーボンブラシ交換までの残り作動時間</p>	<p>ダイヤモンドコアドリルが作動中です。間もなくカーボンブラシの摩耗限界に達します。表示は、カーボンブラシを時機を逸することなく交換することを容易にします。ダイヤモンドコアドリルが自動的にオフになるまでの残り作動時間が、時間および分単位で表示されます。表示は数秒後に自動的に消えます。</p>
 <p>サービスインジケータ</p>	<p>カーボンブラシが摩耗しています。カーボンブラシを交換する必要があります。内部エラーが発生しました。</p>
 <p>カーボンブラシ交換後の慣らし運転</p>	<p>ダイヤモンドコアドリルが作動中です。カーボンブラシが交換されました。寿命を最適なものとするために、カーボンブラシをなおアイドリング状態で連続して 1 分以上慣らし運転してください。慣らし運転が終了するまでの残り時間が表示されます。</p>
 <p>温度超過</p>	<p>ダイヤモンドコアドリルが過熱しています。ダイヤモンドコアドリルは作動しないか、あるいは冷却モードにあります。冷却完了までの残り時間が表示されます。この時間が経過した後もダイヤモンドコアドリルがなお熱い場合は、残り作動時間が再度有効になります。</p>
 <p>電源のトラブル</p>	<p>電源で電圧降下が発生しました。電圧降下の際には、ダイヤモンドコアドリルをフルパワーで作動させることができません。</p> <p>注意事項 表示は数秒後に自動的に消えます。</p>

	<p>穿孔開始ステージ有効での最大作動時間を超過、電源トラブル、ダイヤモンドコアドリル過負荷、温度超過、モーターへの水の浸入、あるいは冷却モードが完了。</p>
<p>再始動ロック</p>	

3.5 DD 200: サービスインジケータおよびパワーインジケータ

ダイヤモンドコアドリルは、サービスインジケータと光信号によるパワーインジケータを装備しています。以下の表示は、ダイヤモンドコアドリルが作動可能な状態（電源に接続され漏電遮断機がオンになっている）になっていると表示されます。

状態		意味
	<p>赤色で点灯</p>	<ul style="list-style-type: none"> ダイヤモンドコアドリルは作動可能状態です。間もなくカーボンブラシの摩耗限界に達します。表示は、カーボンブラシを時機を逸することなく交換することを容易にします。点灯開始後もあと数時間使用することができますが、その後は自動遮断装置が作動します。 ダイヤモンドコアドリルは作動可能状態です。カーボンブラシが交換されました。寿命を最適なものとするために、カーボンブラシをなおアイドリング状態で連続して1分以上慣らし運転してください。 ダイヤモンドコアドリルは作動可能状態ではありません。カーボンブラシが摩耗しています。カーボンブラシを交換する必要があります。 ダイヤモンドコアドリルは作動可能状態ではありません。ダイヤモンドコアドリルの損傷。
	<p>赤色で点滅</p>	<ul style="list-style-type: none"> 過熱。「故障かな?」と思った時を参照してください。
	<p>左 LED が黄色で点灯</p>	<ul style="list-style-type: none"> 接触圧が低すぎる。
	<p>中央 LED が緑色で点灯</p>	<ul style="list-style-type: none"> 接触圧は最適。
	<p>右 LED が赤色で点灯</p>	<ul style="list-style-type: none"> 接触圧が高すぎる。
	<p>右 LED が赤色で点滅</p>	<ul style="list-style-type: none"> 接触圧が高すぎる。定格電流限界を超過した。

3.6 本体標準セット構成



注意事項

安全な作動のために、必ず純正のスペアパーツと消耗品を使用してください。本製品向けに弊社が承認したスペアパーツ、消耗品およびアクセサリは、最寄りのHilti センター、またはwww.hilti.comでご確認ください。

DD-HD 30 用 DD 250 / DD 200 の本体標準セット構成
ダイヤモンドコアドリル、取扱説明書。

DD-ST 200 用 DD 200 の本体標準セット構成
ダイヤモンドコアドリル、ハンドル/レバー、アレンレンチ、取扱説明書。

3.7 アクセサリーとスペアパーツ

QR コード



注意事項

スマートフォンで QR コードをスキャンして詳細情報をご確認ください。

<p>Info Shop</p>  <p>qr.hilti.com/oi/r4247050</p>	DD 200 ドリルスタンドDD-HD 30 について
<p>Info Shop</p>  <p>qr.hilti.com/oi/r4247051</p>	DD 200 ドリルスタンドDD-ST 200 について
<p>Info Shop</p>  <p>qr.hilti.com/oi/r4247019</p>	DD 250 ドリルスタンドDD-HD 30 について

スペアパーツ

商品番号	名称
51279	ホースコネクタ—
2006843	220...240 V カーボンブラシ
2104230	100...127 V カーボンブラシ

4 製品仕様

4.1 ダイヤモンドコアドリル

発電機または変圧器を使用している作業の場合は、それらは本体の銘板に記載されている定格電力より 2 倍以上大きな出力がなければなりません。変圧器または発電機の作動電圧は、常に本体の定格電圧の +5 %...-15 % の範囲になければなりません。

値は 230 V の定格電圧に対するものです。電圧の違いおよび国別仕様の相違により値は異なります。本体の銘板に記載されている定格電圧と周波数、および定格電力または定格電流を確認してください。

作業者情報 (EN 61000-3-11) : 本体にスイッチ入力した際に短時間の電圧降下を生ずることがあります。主電源が不都合な状況になり、他の器具に干渉する可能性があります。回路インピーダンスが < 0.4287 Ω の場合には影響ありません。

		DD 250	DD-HD 30 用 DD 200	DD-ST 200 用 DD 200
重量 (EPTA プロシージャ 01/2003 に準拠)		15.3 kg	14.6 kg	20.4 kg
ドリルスタンド重量 (EPTA プロシージャ 01/2003 に準拠)	DD-HD 30	21.4 kg	21.4 kg	•/•
	DD-ST 200	•/•	•/•	12.3 kg
延長シャフトなしの穿孔深さ		500 mm	500 mm	500 mm
許容水圧		≤ 6 bar	≤ 6 bar	≤ 6 bar
無負荷回転数	1 速	240/min	240/min	240/min
	2 速	580/min	580/min	580/min
	3 速	1,160/min	1,160/min	1,160/min
	4 速	2,220/min	•/•	•/•
最適なコアビット直径	1 速	152 mm ... 450 mm	152 mm ... 500 mm	152 mm ... 500 mm
	2 速	82 mm ... 152 mm	82 mm ... 152 mm	82 mm ... 152 mm
	3 速	35 mm ... 82 mm	35 mm ... 82 mm	35 mm ... 82 mm
	4 速	12 mm ... 35 mm	•/•	•/•
アンカーベースプレートにおける穿孔中心からの最適な間隔のマーキング		330 mm	330 mm	380 mm
バキュームベースプレートにおける穿孔中心からの最適な間隔のマーキング		165 mm	165 mm	215 mm

4.2 各種装備での許容コアビット直径



注意事項

必ず各種装備に応じて異なる許容穿孔方向に注意してください。

上向き穿孔時には、必ず湿式バキュームクリーナーに接続した水処理システムを使用してください。

	DD 250	DD-HD 30 用 DD 200	DD-ST 200 用 DD 200
Ø、スパーサーなし	12 mm ... 300 mm	35 mm ... 300 mm	35 mm ... 400 mm
Ø、スパーサーあり	12 mm ... 450 mm	35 mm ... 500 mm	35 mm ... 500 mm
Ø、水処理システムおよび湿式バキュームクリーナーあり	12 mm ... 250 mm	35 mm ... 250 mm	35 mm ... 250 mm

4.3 騒音および振動値について (EN 62841 準拠)

本説明書に記載されているサウンドプレッシャー値および振動値は、規格に準拠した測定方法に基づいて測定したものです。電動工具を比較するのにご使用いただけます。曝露値の暫定的な予測にも適しています。記載されているデータは、電動工具の主要な使用方法に対する値です。電動工具を他の用途で使用したり、異なる先端工具を取り付けて使用したり、手入れや保守が十分でないまま使用した場合には、データが異なることがあります。このような相違により、作業時間全体で曝露値が著しく高くなる可能性があります。曝露値を正確に予測するためには、本体のスイッチをオフにしている時間や、本体が作動していても実際には使用していない時間も考慮しなければなりません。このような相違により、作業時間全体で曝露値が著しく低くなる可能性があります。作業者を騒音および/または振動による作用から保護するために、他にも安全対策を立ててください (例：電動工具および先端工具の手入れや保守、手を冷やさないようにする、作業手順の編成)。

騒音排出値、EN 62841 準拠

サウンドパワーレベル (L_{wA})	109 dB(A)
サウンドパワーレベルの不確かさ (K_{wA})	3 dB(A)


サウンドプレッシャーレベル (L_{pA})	93 dB(A)
サウンドプレッシャーレベルの不確か性 (K_{pA})	3 dB(A)

合計振動値 (3方向のベクトル合計)、EN 62841 準拠


EN 62841-3-6 準拠のハンドルにおける3軸の振動合計値 (振動およびベクトル合計) は、 2.5 m/s^2 (不確か性 K を含む) を超過しない。

5 ご使用方法

5.1 DD-HD 30: ドリルスタンドを組み立てて穿孔角度を調整する ③


 **注意**
負傷の危険 身体部位の挫傷の危険。ドリルスタンドの旋回設定を緩めると、コラムが突然傾く危険があります。

- ▶ 注意深く作業してください。保護手袋を着用してください。

 **注意**
負傷の危険 ダイヤモンドコアドリルの落下による危険があります。

- ▶ コラム上端には必ずエンドキャップを取り付けてください。エンドキャップは保護とエンドストップの役割を果たします。

1. コラムピボット下部とストラット上部のネジを緩めます。
2. コラムをご希望の位置に合わせます。


 **注意事項**
これには、裏側の角度スケールが役立ちます。

3. 両方のネジをしっかりと締め付けます。

5.2 DD-HD 30: キャリッジをドリルスタンドにロックする


1. キャリッジロック機構をロック位置に回します。
 - ◀ ロックボルトが確実にロックしなければなりません。
2. ハンドルを軽く回して、キャリッジがロックされていることを確認してください。

5.3 ハンドルをドリルスタンドに取り付ける ④


 **注意事項**
ハンドルはキャリッジの左側か右側のどちらかに取り付けることができます。
ドリルスタンドがDD-HD 30 の場合には、ハンドルをキャリッジの2つの異なる軸に取り付けることができます。上部の軸はキャリッジを直接駆動し、下部の軸は1:3の減速ギアによりキャリッジを駆動します。

1. ハンドルを取り付けるには、黒いリングを引き戻します。
2. ハンドルをシャフトに差し込みます。

5.4 ドリルスタンドをアンカーで固定する ⑤

 **警告**
負傷の危険 正しくないアンカーを使用すると、本体が外れて損害が発生する危険があります。

- ▶ 母材に適したアンカーを使用し、アンカーメーカーの取付け指示にしたがってください。確実な固定については、弊社営業担当またはHilti 代理店・販売店までお問い合わせください。

 **注意事項**
Hilti 金属系打込みアンカー-M16 (5/8") は、一般にダイヤモンドコアドリル装備を亀裂のないコンクリートに固定するのに適しています。しかしながら、特定の条件下では別の固定方法が必要となることもあります。確実な固定については、弊社営業担当またはHilti 代理店・販売店までお問い合わせください。

1. 母材に適したアンカーを取り付けてください。使用するベースプレートに応じて間隔を選択します。



注意事項

穿孔中心からの最適な間隔、 DD-HD 30: 330 mm (13 インチ)
穿孔中心からの最適な間隔、 DD-ST 200: 380 mm (15 インチ)

2. アンカーにクランピングスピンドル (アクセサリ) をねじ込みます。
3. クランピングスピンドルの上にドリルスタンドを置き、ドリルスタンドの位置を調整します。使用するドリルスタンドがDD-HD 30 の場合には、位置調整の際にポジションインジケーターを使用してください。スペーサーを使用している場合は、ポジションインジケーターによりドリルスタンドの位置を調整することはできません。
4. クランピングナットをスピンドルに取り付けます。但し、ナットを一杯には締め付けてください。
5. レベル調整スクリューを用いてベースプレートを水平にします。これにはレベリングインジケーターを使用してください。レベル調整スクリューが確実に母材と接触していることを確認してください。
6. ドリルスタンドが確実に固定されるまで、レベル調整スクリューを均等に締め付けてください。
7. ドリルスタンドが確実に固定されていることを確認してください。

5.5 ドリルスタンドをバキュームベースプレート (アクセサリ) で固定する 6



危険

負傷の危険 ダイヤモンドコアドリルの落下による危険があります。

- ▶ ドリルスタンドをバキュームベースプレートのみを使用して天井に固定することは許可されません。重量のあるサポートあるいはネジジャッキなどで追加の固定を確実なものにすることができません。



警告

負傷の危険 ダイヤモンドコアドリルの落下による危険があります。

- ▶ 水平穿孔の際は、ドリルスタンドをチェーンで追加固定する必要があります。



警告

負傷の危険 圧力チェック

- ▶ 穿孔前および穿孔中に、圧力ゲージの指針が緑の領域から出ないようにしなければなりません。



注意事項

ドリルスタンドをアンカーベースプレートとともに使用する場合は、バキュームベースプレートとアンカーベースプレート間の接続が確実に平坦なものであることを確認してください。アンカーベースプレートをバキュームベースプレートにしっかりとねじ止めします。選択したコアビットがバキュームベースプレートを損傷することがないことを確認してください。

ドリルスタンドの位置を合わせる前に、取付けおよび操作のための十分なスペースが確保されているか確認してください。

バキューム固定は、直径 300 mm (12 インチ) 以下のコアビットをスペーサーなしで使用する場合に限られます。

バキュームベースプレートのグリップにはバキュームリリースバルブが装着されており、これにより負圧を再び高めることができます。

1. すべてのレベル調整スクリューを戻し、バキュームベースプレートの約 5 mm (1/5 インチ) 下まで突出させます。
2. バキュームベースプレートのバキュームホースをバキュームポンプに接続します。
3. ドリルスタンドをバキュームベースプレートの上に置きます。
4. ドリルスタンドを同送の下敷きディスク付きネジでバキュームベースプレートに取り付け、ネジを締め付けます。



注意事項

DD-HD 30: 薄いほうのディスクを使用してください。
DD-ST 200: 厚いほうのディスクを使用してください。

5. 穿孔中心を決めます。穿孔中心から本体を立てる方向に向かって線を引きます。

6. 線上で穿孔中心から所定の間隔のところにマークをつけます。バキュームベースプレートの先端の中心をマークに合わせます。



注意事項

その上でバキュームプレートの位置合わせを行う母材が平坦で汚れていないことを確認してください。

穿孔中心からの最適な間隔、 DD-HD 30: 165 mm (6 1/2 インチ)

穿孔中心からの最適な間隔、 DD-ST 200: 215 mm (8 1/2 インチ)

7. バキュームポンプをスイッチオンにし、バキュームリリースバルブを押し続けてください。
8. ドリルスタンドの位置合わせが正しくない場合、バキュームリリースバルブを緩め、バキュームベースプレートを母材に押し付けます。
9. レベル調整スクリューを用いてバキュームベースプレートを水平にします。これにはレベリングインジケータを使用してください。



注意事項

アンカーベースプレートをバキュームベースプレート上でレベル調整することはできません。

10. ドリルスタンドが確実に固定されていることを確認してください。

5.6 DD-HD 30: ドリルスタンドをネジジャッキ (アクセサリ) で固定する

1. コラム上端のエンドキャップ (一体型エンドストップ付き) を外します。
2. ネジジャッキのシリンダーをドリルスタンドのコラムに挿入します。
3. ロッキングボルトを回してネジジャッキを固定します。
4. ドリルスタンドを母材上で位置合わせします。
5. レベル調整スクリューを用いてベースプレートを水平にします。
6. ドリルスタンドをネジジャッキで固定し、ネジジャッキをロックします。
7. ドリルスタンドが確実に固定されていることを確認してください。

5.7 DD-ST 200: ドリルスタンドをネジジャッキ (アクセサリ) で固定する

1. コラム上端にネジジャッキを固定します。
2. ドリルスタンドを母材上で位置合わせします。
3. レベル調整スクリューを用いてベースプレートを水平にします。
4. ドリルスタンドをネジジャッキで固定し、ネジジャッキをロックします。
5. ドリルスタンドが確実に固定されていることを確認してください。

5.8 DD-HD 30: ドリルスタンドのコラム (アクセサリ) を延長する 7



注意事項

穿孔には、コアビットあるいは全長が 650 mm (25 1/2 インチ) 以下の延長コアビットのみを使用してください。

デプスゲージを補助エンドストップとしてコラムで使用することができます。

延長コラムを取り外した後は、再びエンドキャップ (一体型エンドストップ付き) をドリルスタンドに取り付ける必要があります。そうしないと、安全関連のエンドストップ機能が作動しません。

1. コラム上端のエンドキャップ (一体型エンドストップ付き) を外します。エンドキャップを延長コラムに取り付けます。
2. 延長コラムのシリンダーをドリルスタンドのコラムに挿入します。
3. ロッキングボルトを回して延長コラムを固定します。

5.9 DD-HD 30: スペーサー (アクセサリ) を取り付ける 3



警告

負傷の危険。固定部に過負荷がかかることがあります。

- ▶ 1 個あるいは複数のスペーサーを使用している場合は、固定部に過負荷を与えないように接触圧を低減する必要があります。



注意事項

スペーサの取り付け時にはダイヤモンドコアドリルは取り付けられていません。



注意事項

直径 300 mm (11 1/2 インチ) 以上のダイヤモンドコアビットを使用する場合は、1 個または 2 個のスペーサを取り付けて、ドリル軸とドリルスタンド間の間隔を広げる必要があります。ポジションインジケータをスペーサと一緒に使用することはできません。

1. キャリッジロック機構によりキャリッジをコラムにロックします。
2. ダイヤモンドコアドリルをキャリッジにロックするためのロッキングボルトを抜き取ります。
3. キャリッジにスペーサを取り付けます。
4. ロッキングボルトをキャリッジに一杯まで押します。
5. ロッキングボルトを締め付けます。
6. スペーサが確実に固定されていることを確認してください。

5.10 DD-ST 200: スペーサ (アクセサリ) を取り付ける



警告

負傷の危険。固定部に過負荷がかかることがあります。

- ▶ 1 個あるいは複数のスペーサを使用している場合は、固定部に過負荷を与えないように接触圧を低減する必要があります。



注意事項

直径 400 mm (15 3/4 インチ) 以上のダイヤモンドコアビットを使用する場合は、1 個のスペーサを取り付けて、ドリル軸とドリルスタンド間の間隔を広げる必要があります。

1. ダイヤモンドコアドリルをドリルスタンドから外します。
2. キャリッジの 4 本のネジを緩めてキャリッジとダイヤモンドコアドリルとを分離します。
3. スペーサを同送の 4 本のネジを使用してキャリッジに固定します。
4. ダイヤモンドコアドリルを 4 本のネジにより再びスペーサに固定します。

5.11 DD-HD 30: ダイヤモンドコアドリルをドリルスタンドに固定する



注意

負傷の危険 ダイヤモンドコアドリルの意図しない始動による危険。

- ▶ セットアップ作業時には、ダイヤモンドコアドリルが主電源に接続されてはなりません。

1. キャリッジロック機構によりキャリッジをコラムにロックします。
2. ダイヤモンドコアドリルをキャリッジにロックするためのロッキングボルトを抜き取ります。
3. ダイヤモンドコアドリルをキャリッジまたはスペーサに取り付けます。
4. ロッキングボルトをキャリッジまたはスペーサに一杯まで押します。
5. ロッキングボルトを締め付けます。
6. キャリッジカバーの電源コードガイドに電源コードを固定します。
7. ダイヤモンドコアドリルがドリルスタンドに確実に固定されていることを確認してください。

5.12 DD-ST 200: ダイヤモンドコアドリルをドリルスタンドに固定する



危険

負傷の危険 キャリッジの移動の際に高速で動くレバーあるいはハンドルによる衝突。

- ▶ ダイヤモンドコアドリルをドリルスタンドに取り付ける際は、レバーまたはハンドルが取り付けられてはなりません。



注意

負傷の危険 ダイヤモンドコアドリルの意図しない始動による危険。

- ▶ セットアップ作業時には、ダイヤモンドコアドリルが主電源に接続されてはなりません。



注意事項

駆動ユニットとキャリッジで1つのユニットを構成しています。ダイヤモンドコアドリルはキャリッジとともにドリルスタンドから外すことができます。

初めてご使用になる前に、コラムとキャリッジ間の遊びを調整する必要があります。

1. コラム後部からエンドストップネジを取り外します。
2. キャリッジロック機構が開いていることを確認してください。
3. キャリッジの開口部を通してダイヤモンドコアドリルをコラムに取り付けます。
4. キャリッジロック機構を90°を回してキャリッジをコラムにロックします。
5. ハンドルを軽く回して、ダイヤモンドコアドリルがドリルスタンドに確実に固定されていることを確認してください。
6. エンドストップネジをコラムの後部に取り付けます。そうしないと、安全関連のエンドストップ機能が作動しません。

5.13 給水コネクター（アクセサリ）を取り付ける



注意

人および資材への危険 誤った使用によりホースが先勝することがあります。

- ▶ 定期的にホースに損傷がないか点検し、最大許容給水圧が6 barを超えないことを確認してください。
- ▶ ホースが回転部分と接触していないことを確認してください。
- ▶ キャリッジフィードの時にホースが損傷しないように注意してください。
- ▶ 最高水温：40°C。
- ▶ 接続しているウォーターシステムに漏れがないかチェックしてください。



注意事項

コンポーネントの損傷を防止するために、真水または汚れの粒子が含まれていない水のみを使用してください。

本体と給水ホースの間に水流計（アクセサリ）を取り付けることができます。

1. ダイヤモンドコアドリルの給水コックを閉じます。
2. 給水のための接続を構築します（ホースコネクター）。

5.14 水処理システム（アクセサリ）を取り付ける



警告

人および資材への危険 ダイヤモンドコアドリルが損傷し、感電の危険が高まります。

- ▶ 水があふれてモーターおよびエンドキャップまで流れないように注意してください。
- ▶ 上向き穿孔時には、必ず湿式バキュームクリーナーを使用してください。



注意事項

ダイヤモンドコアドリルは天井に対して90°の角度になければなりません。水処理システムのウォーターコレクター・ワッシャーは、ダイヤモンドコアビットの直径に適合したものでなければなりません。



注意事項

水処理システムの使用でコアビットから水を除去するため、周辺を汚すことはありません。湿式バキュームクリーナーと組み合わせると最上の結果が得られます。



注意事項

使用しているドリルスタンドがDD-ST 200 の場合：ウォーターコレクターホルダーを取り付ける前に、ウォーターコレクターホルダー用スペーサーをドリルスタンドに固定します。

1. コラム前側下部にあるドリルスタンドのネジを緩めます。
2. ウォーターコレクターホルダーを下から、ネジの裏側に移動させます。
3. ネジをしっかりと締め付けます。
4. シールを取り付けたウォーターコレクターとウォーターコレクター・ワッシャーを、ホルダーの2個の可動アームの間に取り付けます。
5. ウォーターコレクターを2本のネジでホルダーに固定します。
6. ウォーターコレクターに湿式バキュームクリーナーを接続するか、水を流出することのできるホースを接続します。

5.15 デブスゲージ (アクセサリ) を調整する

1. コアビットが母材に接触するまでハンドルを回します。
2. ご希望の穿孔長に合わせて、キャリッジとデブスゲージ間の距離を調整します。
3. デブスゲージを固定します。

5.16 ダイヤモンドコアビットを装着する (チャック BL)



危険

負傷の危険 作業材料や折れた先端工具の破片が飛散して、作業領域外の人員にも負傷を負わせる恐れがあります。

- ▶ 損傷した先端工具は使用しないでください。先端工具を使用する際は、その都度まず折損や亀裂、摩損あるいは激しい摩耗のないことを確認してください。



注意

負傷の危険 使用中に先端工具が高温になる場合があります。エッジが鋭くなっている場合があります。

- ▶ 先端工具の交換時には保護手袋を着用してください。



注意事項

切断性能あるいは穿孔能力の低下が認められるようになったなら、ダイヤモンドコアビットは直ちに交換する必要があります。一般的に、ダイヤモンドセグメントの高さが2 mm (1/16 インチ) 未満になったら交換する必要があります。

1. キャリッジロック機構によりキャリッジをコラムにロックします。キャリッジが確実に固定されていることを確認してください。
2. オープンマークの方向へ回してチャックを開きます。
3. ダイヤモンドコアビットのチャック機構を、下からコアドリルのチャックに挿入し、ギアが噛み合うまで押し込みます。
4. クローズマークの方向へ回してチャックを閉じます。
5. ダイヤモンドコアビットがチャックに確実に取り付けられているか点検します。

5.17 代替チャックによるダイヤモンドコアビットの取り付け

1. 本体シャフトを適切なオープンエンドレンチを使用してロックします。
2. 適切なオープンエンドレンチを使用してコアビットを締め付けます。

5.18 全負荷回転数を選択する



注意事項

スイッチは必ず停止状態で操作してください。

1. 使用するコアビット径に応じてギアを選択します。
2. スイッチを推奨位置に回します、その際同時に手でコアビットも回します。

5.19 漏電遮断機 (PRCD)

1. ダイヤモンドコアドリルの電源プラグをアース接続部付きコンセントに差し込みます。
2. 漏電遮断機 PRCD の「I」または「RESET」ボタンを押します。
 - ◁ 表示が点灯します。
3. 漏電遮断機 PRCD の「0」または「TEST」ボタンを押します。
 - ◁ 表示が消えます。



警告

負傷の危険 感電の危険。

- ▶ 表示が消えない場合、ダイヤモンドコアドリルを使い続けてはいけません。弊社営業担当または Hiiti 代理店・販売店にダイヤモンドコアドリルの修理を依頼してください。

4. 漏電遮断機 PRCD の「I」または「RESET」ボタンを押します。
 - ◁ 表示が点灯します。

5.20 ダイヤモンドコアドリルを作動させる



警告

人および資材への危険 ダイヤモンドコアドリルが損傷し、感電の危険が高まります。

- ▶ 湿式穿孔での上向きの施工時には、湿式バキュームクリーナーに接続した水処理システムを必ず使用してください。



危険

人および資材への危険 湿式バキュームクリーナーは遅れてオン / オフになります。これにより、水がダイヤモンドコアドリルからあふれ出す危険があります。ダイヤモンドコアドリルが損傷し、感電の危険が高まります。

- ▶ 上向き穿孔の際には、水供給部を開く前に湿式バキュームクリーナーを手動でスタートさせ、水供給部を閉じた後に湿式バキュームクリーナーを手動でオフにする必要があります。



危険

人および資材への危険 ダイヤモンドコアドリルが損傷し、感電の危険が高まります。

- ▶ 上向き穿孔時には、集じん装置が機能しない場合は（例：湿式バキュームクリーナーが満杯）作業を中断してください。



警告

人および資材への危険 水受け機能は、上向き斜め穿孔の際には無効になります。ダイヤモンドコアドリルが損傷し、感電の危険が高まります。

- ▶ 上向き斜め穿孔は行わないでください。



注意事項

DD 250: 停止状態あるいはアイドリング状態で穿孔開始ステップのボタンを押すと、穿孔の全負荷回転数が低減されます。これにより、直径の大きなダイヤモンドコアビットによる穿孔を、簡単かつ少ない振動で行うことができます。穿孔開始ステップのボタンを再度押すと、機能は無効になりダイヤモンドコアドリルは予め設定されている全負荷回転数に戻ります。最大 2 分が経過するまでの間に穿孔開始機能が無効にされないと、ダイヤモンドコアドリルは自動的にオフになります。

1. 給水コックを、ご希望の水量に達するまでゆっくりと開きます。
2. ダイヤモンドコアドリルの ON/OFF スイッチを「I」にします。
3. キャリッジロック機構を開きます。
4. コアビットが母材に接触するまでハンドルを回します。
5. 穿孔開始時には、コアビットがセンタリングされるまで軽く押し付けるだけにしてください。コアビットがセンタリングされた後、接触圧を高めてください。
6. パワーインジケーターに応じて接触圧を調整してください。

5.21 ダイヤモンドコアドリルの電源をオフにする



警告

人および資材への危険 上向きの穿孔作業時にはコアビットが水で満たされます。ダイヤモンドコアドリルが損傷し、感電の危険が高まります。

- ▶ 上向きの穿孔作業を終了する時には、まず水を慎重に流し出してください。給水ホースを給水コックから外し、給水コックを開いて水を排出します。水があふれてモーターおよびエンドキャップまで流れないように注意してください。

1. ダイヤモンドコアドリルの給水コックを閉じます。
2. ダイヤモンドコアビットを穿孔穴から引き出します。
3. ダイヤモンドコアドリルの電源をオフにします。
4. キャリッジロック機構によりキャリッジをコラムにロックします。
5. 湿式バキュームクリーナーがある場合には、そのスイッチをオフにします。

5.22 DD-HD 30: ダイヤモンドコアドリルをドリルスタンドから取り外す

1. キャリッジロック機構によりキャリッジをコラムにロックします。
2. キャリッジカバーの電源コードガイドから電源コードを外します。



注意

人および資材への危険 ダイヤモンドコアドリルの落下による危険があります。

- ▶ 片方の手でコアドリルのキャリンググリップを保持します。

3. キャリッジの本体ロック機構のロッキングボルトを緩めます。
4. ロッキングボルトを外します。
5. キャリッジからダイヤモンドコアドリルを取り外します。
6. ロッキングボルトをキャリッジに一杯まで押します。

5.23 DD-ST 200: ダイヤモンドコアドリルをドリルスタンドから取り外す



注意事項

駆動ユニットとキャリッジで1つのユニットを構成しています。ダイヤモンドコアドリルはキャリッジとともにドリルスタンドから外すことができます。

1. コラム後部からエンドストップネジを取り外します。
2. キャリッジロック機構を開きます。
3. ダイヤモンドコアドリルをドリルスタンドから取り外します。
4. エンドストップネジをコラムの後部に取り付けます。 そうしないと、安全関連のエンドストップ機能が作動しません。

6 手入れ、保守、搬送および保管

6.1 製品の手入れ

- ▶ 本製品、特にグリップ表面を乾燥させ、清潔に保ち、オイルやグリスが付着しないようにしてください。洗剤、磨き粉等のシリコンを含んだ清掃用具は使用しないでください。
- ▶ 通気溝が覆われた状態で本製品を使用しないでください。通気溝を乾いたブラシを使用して注意深く掃除してください。本製品内部に異物が入らないようにしてください。
- ▶ 定期的に、少し湿したウエスで本体表面を拭いてください。スプレーやスチームあるいは流水などによる清掃は避けてください。
- ▶ 常にコアビットのコネクションエンドを清潔に保ち、軽くグリスを塗布しておいてください。
- ▶ 手入れ、保守の作業を済ませた後は、すべての安全機構が装着され、正常に作動していることを確認してください。
- ▶ サービスおよび修理の際は弊社営業員にご連絡いただくか、またはwww.hilti.com で連絡先をご確認ください。

6.1.1 DD-HD 30: コラムとキャリッジ間の遊びを調整する



注意事項

キャリッジの 4 本の調整ネジでコラムとキャリッジ間の遊びを調整することができます。

1. 調整ネジをアレンレンチ SW5 で緩めます (取り外さないこと)。
2. オープンエンドレンチ SW19 を使用して調整ネジを回し、ローラーを軽くコラムに押し付けます。
3. 調整ネジを締め付けます。キャリッジは、ダイヤモンドコアビットが取り付けられていない状態では所定位置にあり、ダイヤモンドコアビットを装着すると降下するのなら、正しく調整されています。

6.1.2 DD-ST 200 用 DD 200: コラムとキャリッジ間の遊びを調整する



注意事項

キャリッジの 6 本の調整ネジでコラムとキャリッジ間の遊びを調整することができます。

1. 調整ネジをアレンレンチを使用してしっかり締め付けます。

製品仕様

締付けトルク

3 Nm

2. 続いて側方の 4 本の調整ネジを半回転、後方の 2 本の調整ネジを 1/4 回転緩めます。
3. キャリッジが正しく調整されていると、ダイヤモンドコアビットがない場合キャリッジは動かず、ダイヤモンドコアビットを装着するとキャリッジは下に移動します。

6.2 カーボンブラシを交換する



危険

負傷の危険 感電の危険。

- ▶ 本体の使用、保守、修理を行うのは、認定、訓練された人のみに限ります。これらの人は、遭遇し得る危険に関する情報を入手してなければなりません。



注意事項

カーボンブラシの交換が必要になると、レンチシンボルの表示が点灯する。
常にすべてのカーボンブラシを同時に交換する。

1. ダイヤモンドコアドリルを電源から切り離す。
2. モーターの左側と右側のカーボンブラシカバーを開く。
3. このときカーボンブラシの取り付け状態とコードの取り回しに注意する。ダイヤモンドコアドリルから使用済みのカーボンブラシを取り出す。
4. 新品のカーボンブラシを、古いカーボンブラシが取り付けられていた位置に正確に取り付ける。



注意事項

取り付け時にはコードの絶縁を損傷しないように注意する。

5. モーターの左側と右側のカーボンブラシカバーをねじ締めする。
6. カーボンブラシをアイドルングで連続して 1 分以上慣らし運転する。



注意事項

カーボンブラシの交換の後、約 1 分の運転時間が経過すると表示灯が消灯する。
1 分の最低作動時間を無視すると、カーボンブラシの寿命が大幅に短くなる。

6.3 搬送および保管



注意

人および資材への危険 凍結した部品は本体および使用者にとって危険です。

- ▶ 温度が氷点下になった場合、本体に水分が残っていないことを確認してください。

**警告**

負傷の危険 個々の部品が外れて落下する危険があります。

- ▶ ダイヤモンドコアドリルおよび / またはドリルスタンドはクレーンにかけないでください。

**注意事項**



ダイヤモンドコアドリル、ドリルスタンドおよびコアビットは別々に搬送してください。
搬送を楽にするにはホイールアセンブリー（アクセサリ）をご使用ください。

- ▶ ダイヤモンドコアドリルを保管する前に、給水コックを開いてください。


7 故障時のヒント



- ▶ この表に記載されていない、あるいはご自身で解消することのできない故障が発生した場合には、弊社営業担当またはHiHi 代理店・販売店にご連絡ください。

7.1 DD 200: ダイヤモンドコアドリルが作動しない

故障	考えられる原因	解決策
 サービスインジケータに何も表示されない。	漏電遮断機がオンになっていない。	▶ 漏電遮断機が正しく作動するか点検し、漏電遮断機をオンにする。
	供給電源の遮断。	▶ 他の電動工具を接続して機能を点検する。 ▶ プラグ接続、電源コード、電線および主電源ヒューズを点検する。
	モーター内への水の浸入。	▶ ダイヤモンドコアドリルを温かい乾燥した場所で完全に乾燥させる。
 サービスインジケータが点灯。	カーボンブラシの摩耗。	▶ カーボンブラシを交換する。→ 頁115
	モーターの過熱。	▶ モーターが冷えるまで数分待機するか、あるいは冷却を促進させるためにダイヤモンドコアドリルをアイドルで動作させる。ダイヤモンドコアドリルをオフにして、再びオンにする。

7.2 DD 200: ダイヤモンドコアドリルが作動しない

故障	考えられる原因	解決策
 サービスインジケータが点滅。	モーターの過熱。ダイヤモンドコアドリルは冷却モードになっている。	▶ モーターが冷えるまで数分待機するか、あるいは冷却を促進させるためにダイヤモンドコアドリルをアイドルで動作させます。通常温度になると、ダイヤモンドコアドリルの表示が消えて再始動ロック状態に切り替わります。ダイヤモンドコアドリルをオフにして、再びオンにします。


故障	考えられる原因	解決策
 サービスインジケータが点灯。	間もなくカーボンブラシの摩耗限界に達する。ダイヤモンドコアドリルの自動的にオフになるまで、まだ数時間の残り作動時間がある。 カーボンブラシが交換されているので慣らし運転の必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ できるだけ早い機会にカーボンブラシを交換する。 ▶ カーボンブラシをアイドルリングで連続して1分間以上慣らし運転させる。
 パワーインジケータが点灯しない。	モーター電子回路とLEDインジケータ間の通信エラー。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ダイヤモンドコアドリルはLEDインジケータなしでも作動する。 ▶ できるだけ早い機会にダイヤモンドコアドリルをHiltiに送付して修理を依頼する。
ダイヤモンドコアドリルがフルパワーにならない。	電源故障-電源で電圧降下が発生している。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ その電源あるいは発電機に接続されている他の機器で不具合が発生しているか確認する。 ▶ 使用している延長コードの長さを点検する。
ダイヤモンドコアビットが回転しない。	ダイヤモンドコアビットが母材を噛んだ。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ オープンエンドレンチを使ってコアビットを外す：不意に始動しないように電源コードをコンセントから抜く。コネクションエンド付近で適切なオープンエンドレンチを使ってダイヤモンドコアビットをはさみ、ダイヤモンドコアビットを回しながら外す。
	スタンドを使用した穿孔	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ハンドルを回してキャリッジを上下に動かして、ダイヤモンドコアビットを外す。
	ギア選択スイッチがロックしていない。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ロックするまでギア選択スイッチを操作する。
穿孔速度が低下する。	最大穿孔深さに達している。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ コアを外し、コアビット延長シャフトを使用する。
	コアがダイヤモンドコアビット内で引っ掛かっている。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ コアをコアビットから外す。
	仕様が母材に適していない。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 適切な仕様のダイヤモンドコアビットを選択する。
	鋼材含有量が多い（金属切り屑を含んだ濁りのない水により確認可能）。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 適切な仕様のダイヤモンドコアビットを選択する。
	ダイヤモンドコアビットの故障。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ダイヤモンドコアビットに損傷がないか点検し、必要ならば交換する。
	ギアの選択が正しくない。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 正しいギアを選択する。
	接触圧が低すぎる。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 接触圧を高くする。
	本体出力が低すぎる。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 1段階強力なギアを選択する。
	ダイヤモンドコアビットの目つぶれ。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ダイヤモンドコアビットを研磨盤で研ぐ。
	水量が多すぎる。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 給水コックで水量を減らす。
水量が少なすぎる。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ダイヤモンドコアビットへの水供給をチェックするか、あるいは給水コックで水量を多くする。 	

故障	考えられる原因	解決策
穿孔速度が低下する。	キャリッジロック機構が閉じている。	▶ キャリッジロック機構を開く。
ハンドルを抵抗なく回せる。	シャーピンが折れている。	▶ シャーピンを交換する。
ダイヤモンドコアビットをチャックに挿入できない。	コネクションエンド / チャックの汚れまたは損傷。	▶ コネクションエンドまたはチャックを清掃してグリスを塗布するか、あるいはこれらを交換する。
ウォータースイベルまたはギアハウジングから水が漏れ出る。	水圧が過大。 シャフトシールリングの摩耗。	▶ 水圧を低くする。 ▶ シャフトシールリングを交換する。
作動中、チャックから水が漏れ出る。	ダイヤモンドコアビットがチャックにしっかりと固定されていない。	▶ ダイヤモンドコアビットをしっかりとねじて締め付ける。 ▶ ダイヤモンドコアビットを取り外す。コアビット軸を中心にダイヤモンドコアビットを約90°回す。ダイヤモンドコアビットを再度取り付ける。
	コネクションエンド / チャックの汚れ。	▶ コネクションエンドまたはチャックを清掃し、グリスを塗布する。
	チャックまたはコネクションエンドのシールの故障。	▶ シールを点検し、必要ならば交換する。
水流がない。	水回路の詰まり。	▶ 水圧を高くするか、あるいは水回路に逆方向から水を流して洗浄する。水供給口および排水口を清掃する。
穿孔システムの遊びが大きすぎる。	ダイヤモンドコアビットがチャックにしっかりと固定されていない。	▶ ダイヤモンドコアビットをしっかりとねじて締め付ける。 ▶ ダイヤモンドコアビットを取り外す。コアビット軸を中心にダイヤモンドコアビットを約90°回す。ダイヤモンドコアビットを再度取り付ける。
	コネクションエンド / チャックの故障。	▶ コネクションエンドとチャックを点検し、必要ならば交換する。
	ダイヤモンドコアドリルとキャリッジまたはスパーサーとの接続が緩んでいる。	▶ 接続を点検し、必要に応じてダイヤモンドコアドリルを改めて固定する。
	キャリッジの遊びが大きすぎる。	▶ コラムとキャリッジ間の遊びを調整する。
	ドリルスタンドのネジ接続が緩んでいる。	▶ ドリルスタンドのネジが確実に取り付けられているか点検し、必要に応じて増し締めする。
	ドリルスタンドが確実に固定されていない。	▶ ドリルスタンドを確実に固定する。

7.3 DD 250: ダイヤモンドコアドリルが作動しない

故障	考えられる原因	解決策
 マルチファンクションディスプレイに何も表示されない。	漏電遮断機がオンになっていない。	▶ 漏電遮断機が正しく作動するか点検し、漏電遮断機をオンにする。
	供給電源の遮断。	▶ 他の電動工具を接続して機能を点検する。 ▶ プラグ接続、電源コード、電線および主電源ヒューズを点検する。
	モーター内への水の浸入。	▶ ダイヤモンドコアドリルを温かい乾燥した場所で完全に乾燥させる。
 修理が必要。	カーボンブラシの摩耗。	▶ カーボンブラシを交換する。→ 頁115
	モーター内への水の浸入。	▶ ダイヤモンドコアドリルを温かい乾燥した場所で完全に乾燥させる。
 再始動ロック。	モーターの過熱。冷却が終了した。	▶ ダイヤモンドコアドリルをオフにして、再びオンにする。
	電源故障- 電源で電力供給の遮断が発生している。	▶ その電源あるいは発電機に接続されている他の機器で不具合が発生しているか確認する。 ▶ 使用している延長コードの長さを点検する。 ▶ ダイヤモンドコアドリルをオフにして、再びオンにする。
	穴明けステップ有効での最大作動時間を超過した。	▶ ダイヤモンドコアドリルをオフにして、再びオンにする。
	モーター内への水の浸入。	▶ ダイヤモンドコアドリルを温かい乾燥した場所で完全に乾燥させる。
 温度超過。	モーターの過熱。	▶ モーターが冷えるまで数分待機するか、あるいは冷却を促進させるためにダイヤモンドコアドリルをアイドルで動作させる。ダイヤモンドコアドリルをオフにして、再びオンにする。

7.4 DD 250: ダイヤモンドコアドリルが作動しない


故障	考えられる原因	解決策
 温度超過。	モーターの過熱。ダイヤモンドコアドリルは冷却モードになっている。	▶ モーターが冷えるまで数分待機するか、あるいは冷却を促進させるためにダイヤモンドコアドリルをアイドルで動作させます。通常温度になると、ダイヤモンドコアドリルの表示が消えて再始動ロック状態に切り替わります。ダイヤモンドコアドリルをオフにして、再びオンにします。

故障	考えられる原因	解決策
 <p>カーボンブラシ交換までの残り作動時間。</p>	<p>間もなくカーボンブラシの摩耗限界に達する。ダイヤモンドコアドリルの自動的にオフになるまで、まだ数時間の残り作動時間がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ できるだけ早い機会にカーボンブラシを交換する。
 <p>カーボンブラシ交換後の慣らし運転。</p>	<p>カーボンブラシが交換されているので慣らし運転の必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ カーボンブラシをアイドルングで連続して1分間以上慣らし運転させる。
 <p>マルチファンクションディスプレイに何も表示されない。</p>	<p>モーター電子回路とマルチファンクションディスプレイ間の通信エラー。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ダイヤモンドコアドリルはディスプレイ表示なしでも作動する。 ▶ できるだけ早い機会にダイヤモンドコアドリルをHiltiに送付して修理を依頼する。
 <p>穴明けステップを有効にできない。</p>	<p>ダイヤモンドコアドリルが穿孔を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ コアビットが母材に接触しなくなるまでハンドルを回す。
	<p>カーボンブラシが交換されていてダイヤモンドコアドリルが慣らし運転されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 慣らし運転を終了させる。
	<p>モーターの過熱。ダイヤモンドコアドリルは冷却モードになっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 冷却モードを終了させる。
 <p>電源故障 - ダイヤモンドコアドリルがフルパワーにならない。</p>	<p>電源故障- 電源で電圧降下が発生している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ その電源あるいは発電機に接続されている他の機器で不具合が発生しているか確認する。 ▶ 使用している延長コードの長さを点検する。
 <p>マルチファンクションディスプレイのギア表示が「0」になり、ダイヤモンドコアビットが回転しない。</p>	<p>ギア選択スイッチがロックしていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ロックするまでギア選択スイッチを操作する。

故障	考えられる原因	解決策
ダイヤモンドコアビットが回転しない。	ダイヤモンドコアビットが母材を噛んだ。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ オープンエンドレンチを使ってコアビットを外す：不意に始動しないように電源コードをコンセントから抜く。コネクションエンド付近で適切なオープンエンドレンチを使ってダイヤモンドコアビットをはさみ、ダイヤモンドコアビットを回しながら外す。
		スタンドを使用した穿孔 <ul style="list-style-type: none"> ▶ ハンドルを回してキャリッジを上下に動かして、ダイヤモンドコアビットを外す。
穿孔速度が低下する。	最大穿孔深さに達している。	▶ コアを外し、コアビット延長シャフトを使用する。
	コアがダイヤモンドコアビット内で引っ掛かっている。	▶ コアをコアビットから外す。
	仕様が母材に適していない。	▶ 適切な仕様のダイヤモンドコアビットを選択する。
	鋼材含有量が多い（金属切り屑を含んだ濁りのない水により確認可能）。	▶ 適切な仕様のダイヤモンドコアビットを選択する。
	ダイヤモンドコアビットの故障。	▶ ダイヤモンドコアビットに損傷がないか点検し、必要ならば交換する。
	ギアの実装が正しくない。	▶ 正しいギアを選択する。
	接触圧が低すぎる。	▶ 接触圧を高くする。
	本体出力が低すぎる。	▶ 1段階強力なギアを選択する。
	ダイヤモンドコアビットの目つぶれ。	▶ ダイヤモンドコアビットを研磨盤で研ぐ。
	水量が多すぎる。	▶ 給水コックで水量を減らす。
	水量が少なすぎる。	▶ ダイヤモンドコアビットへの水供給をチェックするか、あるいは給水コックで水量を多くする。
	キャリッジロック機構が閉じている。	▶ キャリッジロック機構を開く。
ハンドルを抵抗なく回せる。	シャーペンが折れている。	▶ シャーペンを交換する。
ダイヤモンドコアビットをチャックに挿入できない。	コネクションエンド / チャックの汚れまたは損傷。	▶ コネクションエンドまたはチャックを清掃してグリスを塗布するか、あるいはこれらを交換する。
ウォータースイベルまたはギアハウジングから水が漏れ出る。	水圧が過大。	▶ 水圧を低くする。
	シャフトシールリングの摩耗。	▶ シャフトシールリングを交換する。
作動中、チャックから水が漏れ出る。	ダイヤモンドコアビットがチャックにしっかりと固定されていない。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ダイヤモンドコアビットをしっかりとはめて締め付ける。 ▶ ダイヤモンドコアビットを取り外す。コアビット軸を中心にダイヤモンドコアビットを約90°回す。ダイヤモンドコアビットを再度取り付ける。
	コネクションエンド / チャックの汚れ。	▶ コネクションエンドまたはチャックを清掃し、グリスを塗布する。

故障	考えられる原因	解決策
作動中、チャックから水が漏れ出る。	チャックまたはコネクションエンドのシールの故障。	▶ シールを点検し、必要ならば交換する。
水流がない。	水回路の詰まり。	▶ 水圧を高くするか、あるいは水回路に逆方向から水を流して洗浄する。水供給口および排水口を清掃する。
穿孔システムの遊びが大きすぎる。	ダイヤモンドコアビットがチャックにしっかりと固定されていない。	▶ ダイヤモンドコアビットをしっかりとねじで締め付ける。 ▶ ダイヤモンドコアビットを取り外す。コアビット軸を中心にダイヤモンドコアビットを約90°回す。ダイヤモンドコアビットを再度取り付けれる。
	コネクションエンド / チャックの故障。	▶ コネクションエンドとチャックを点検し、必要ならば交換する。
	ダイヤモンドコアドリルとキャリッジまたはスパーサーとの接続が緩んでいる。	▶ 接続を点検し、必要に応じてダイヤモンドコアドリルを改めて固定する。
	キャリッジの遊びが大きすぎる。	▶ コラムとキャリッジ間の遊びを調整する。
	ドリルスタンドのネジ接続が緩んでいる。	▶ ドリルスタンドのネジが確実に取り付けられているか点検し、必要に応じて増し締めする。
	ドリルスタンドが確実に固定されていない。	▶ ドリルスタンドを確実に固定する。

8 廃棄

 **Hilti** 製品の大部分の部品はリサイクル可能です。リサイクル前にそれぞれの部品は分別して回収されなければなりません。多くの国で**Hilti** は、古い電動工具をリサイクルのために回収しています。詳細については弊社営業担当または**Hilti** 代理店・販売店にお尋ねください。

古い電気および電子工具の廃棄に関するヨーロッパ基準と各国の法律に基づき、使用済みの電気工具は一般ゴミとは別にして、環境保護のためリサイクル規制部品として廃棄してください。



- ▶ 本体を一般ゴミとして廃棄してはなりません。

8.1 ノロを廃棄する場合の推奨前処理



注意事項

環境面について言えば、ノロを適切な前処理なしに、そのまま河川、湖水、下水施設などに流すのは問題となります。地域で適用されている法規について当局にお問い合わせください。

1. ノロを回収してください（例：産業用湿式バキュームクリーナーを使用）。
2. ノロは固まらせた後に固形物として建設廃棄物処理場に運んで処理してください（綿毛を加えると固形化が早まる）。
3. ノロ（アルカリ、 $\text{pH} > 7$ ）から流れ出る水に酸性中和剤を加えるか、あるいは多量の水を加えて中性化させてから、下水に流してください。

9 メーカー保証

- ▶ 保証条件に関するご質問は、最寄りの**Hilti** 代理店・販売店までお問い合わせください。



Hilti Corporation

LI-9494 Schaan

Tel.: +423/234 21 11

Fax: +423/234 29 65

www.hilti.com

